

TOSHIBA

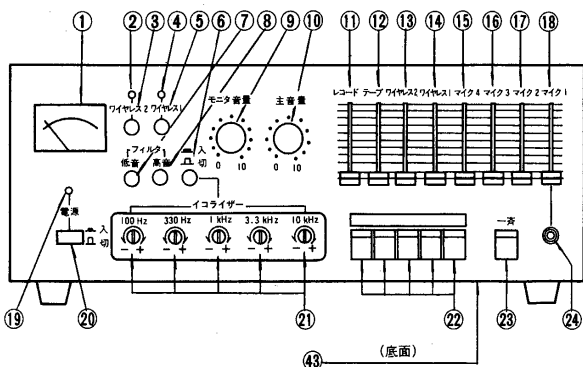
東芝卓上形アンプ取扱説明書

AVA-1203B

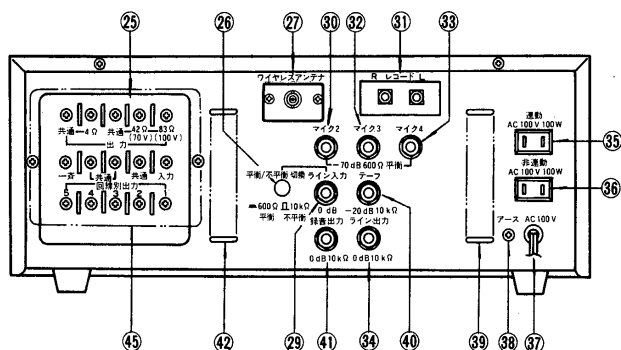
このたびは東芝卓上形アンプをお買いあげいただきまして、まことにありがとうございました。お求めの卓上形アンプを正しく使っていただくために、この取扱説明書をよくお読みください。なお、お読みになったあとは必ず保存してください。

各部のなまえ

前面図



背面図



番号	名称	番号	名称
1	出力レベル計	25	スピーカ出力端子
2	ワイヤレス2(C13ch) 受信表示(カメレオン式)*1	26	ライン平衡/不平衡切換スイッチ
3	ワイヤレス2電源スイッチ	27	ワイヤレスアンテナ入力端子 (BNC)
4	ワイヤレス1(C11ch) 受信表示(カメレオン式)*1	28	
5	ワイヤレス1電源スイッチ	29	ライン入力ジャック
6	イコライザ入、切スイッチ	30	マイク2入力ジャック
7	ローカットフィルター入、切スイッチ	31	レコード入力端子
8	ハイカットフィルター入、切スイッチ	32	マイク3入力ジャック
9	モニタ音量調節ツマミ	33	マイク4入力ジャック
10	主音量調節ツマミ	34	ライン出力ジャック
11	レコード音量調節ツマミ	35	サービスコンセント(電源スイッチと連動)
12	テープ音量調節ツマミ	36	サービスコンセント(電源スイッチと非連動)
13	ワイヤレス2(C13ch) 音量調節ツマミ	37	ACコード
14	ワイヤレス1(C11ch) 音量調節ツマミ	38	アースねじ
15	マイク4音量調節ツマミ	39	通風孔
16	マイク3音量調節ツマミ	40	テープ入力ジャック
17	マイク2音量調節ツマミ	41	録音出力ジャック
18	マイク1音量調節ツマミ	42	通風孔
19	電源表示	43	モニタスピーカ(底面)
20	電源スイッチ	44	
21	イコライザ調節器	45	端子カバー
22	回線別出力スイッチ		
23	一斉スイッチ		
24	マイク1入力ジャック		

*1. カメレオン式とは、ワイヤレスの信号を受信しているとき「緑」、待受時に「赤」に点灯することに由来します。(2色発光LED使用)

特にご注意を

- 必ずアースを取り付けてご使用ください。
- 感電事故防止のため、必ずアース端子⑳を地面に接地してください。ガス管にアースしますと危険ですから絶対におやめください。
- 通風のよい場所に設置してください。
- 湿度の高い所や温度の高い所での使用は避けてください。またアンプの上に物を置いたり通風孔をふさぐようなことはおやめください。
- アンプの改造は絶対にしないでください。
- 電気用品取締法にふれることがありますのでアンプ内部の改造は絶対におやめください。
- 機器(スピーカーなど)接続の際、必ず電源コード㉓をコンセントからはずしてください。
- ヒューズは▽マークの指定容量のものと交換してください。(5A, 15A)
- 針金や銅線をヒューズのかわりに使用しないでください。また交換するヒューズは指定容量のものを必ずご使用ください。

工事店様へ

工事が終了しましたら、この説明書は必ずお客様へお渡しください。

TOSHIBA

- 電源コードや接続機器類のコードは正しく接続し、抜くときには、プラグを持って抜き取るようにしてください。コードを引っ張るとプラグの中で断線するおそれがあります。
- アンプの上に水の入ったものを置かないでください。水をこぼしますと大変危険です。
- アンプの中にピンなどの金属物を落したときは、すぐに電源コードの接続をはずし、取り出してください。そのままにしておきますと、故障、感電、火災などの原因になり危険です。
- サービスコンセントの容量は最大1 Aまでです。接続機器の容量にご注意ください。
- ワイヤレスマイクをお使いになるときはアンテナの直視距離内でご使用ください。建物や人の影に入ったり、ワイヤレスマイクのアンテナをまらめたりしますと受信できないことがあります。ワイヤレスマイクのアンテナは自然に垂らせてお使いください。
- 本機に適合するワイヤレスマイクはAWM-310、AWM-320 C11・C13の300MHz帯のワイヤレスマイクロホンです。(他社の製品ではチャンネルが同じでもお使いいただけられないものもあります。)

ワイヤレスアンテナの設置のしかた

- 適合ワイヤレスアンテナはAWP-31です。アンテナ混合器AWD-121をお使いになると最大2本まで接続できます。
- 金属物の近くや、鉄筋コンクリートの狭い部屋でワイヤレスマイクを移動しながら使用すると、電波の反射や干渉により、急に音が出なくなることがあります。これをデッドポイントと呼んでいます。このデッドポイントを解消するためにはアンテナの位置や方向をかえて最良点に設置してください。
- また高周波乾燥機や、ブラッシングモータなどの妨害雑音を発生する電気器具の近くや、道路際には設置しないでください。雑音が入ることがあります。
- アンプとワイヤレスアンテナとの間の距離が長くなりますと減衰が大きくなり受信状態が悪くなります。下記表の距離内のなるべくアンプに近い位置にワイヤレスアンテナを取り付けてください。

	使用可能同軸ケーブル		
	3C-2V	5C-2V	5C-FB
アンテナからアンプ までの延長可能距離	30m以下	40m以下	80m以下

- BNCコネクタは付属していません。ご使用になる同軸ケーブルに合ったものを別にお求めください。
- ワイヤレスアンテナAWP-31、ワイヤレス混合器AWD-121等の取扱説明書もあわせてお読みください。

接続のしかた

■スピーカの接続

スピーカ各端子とアンプの出カインピーダンスの関係はつぎの表をご覧ください。

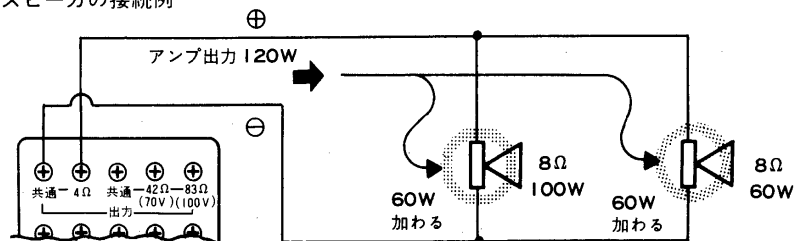
アンプの出カ インピーダンス	定格出力時 伝送電圧	適合負荷インピーダンス (接続スピーカの合成インピーダンス)
4Ω	—	4～16Ω
42Ω	70 V	42Ω以上
83Ω	100 V	83Ω以上

①ローインピーダンススピーカの接続

- ローインピーダンスのスピーカを接続するときは4Ω端子に接続します。
多数のスピーカを接続するときは、全スピーカの合成インピーダンスが4Ω以下にならないようにご注意ください。
- スピーカの定格入力力はスピーカ1個に加わる入力ワット数より大きいものを接続してください。スピーカの定格入力力がスピーカ1個に加わる入力ワット数より小さいとスピーカを損傷することがありますので十分ご注意ください。
- ローインピーダンススピーカを接続したときは一斉放送になります。
(回線別出力スイッチは使用できません)

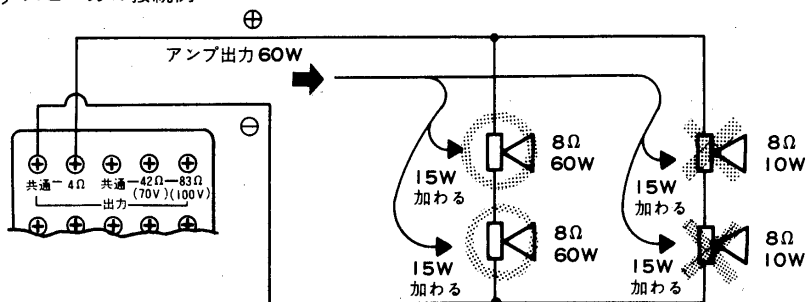
スピーカの合成 インピーダンス	アンプの定格出力
4Ω	120W
8Ω	60W
16Ω	30W

〔例1〕スピーカの接続例



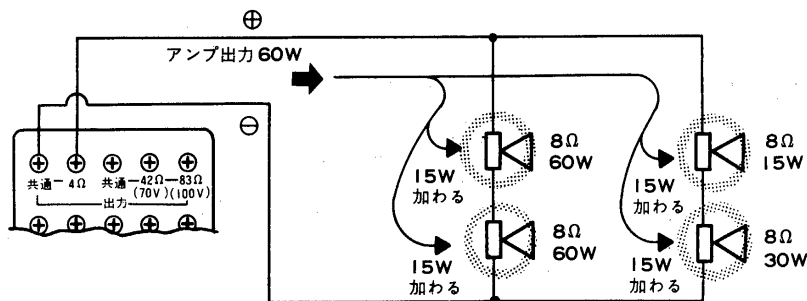
アンプのスピーカ接続端子 共通 - 4Ω
 アンプの出カインピーダンス 4Ω スピーカの合成インピーダンス 4Ω
 アンプの出力 120W スピーカの定格入力 100Wと60W
 2個のスピーカとも〔例1〕のように定格入力がスピーカ1個に加わる入力ワット数と等しいか大きくしてお使いください。

〔例2〕スピーカの接続例



アンプのスピーカ接続端子 共通 - 4Ω
 アンプの出カインピーダンス 4Ω スピーカの合成インピーダンス 8Ω
 アンプの出力 60W スピーカの定格入力 60Wと10W
 4個のスピーカのうち2個は定格入力がスピーカ1個に加わる入力ワット数(15W)より小さくスピーカを損傷する恐れがあります。
 〔例3〕のように15W以上の定格入力のスピーカを使用してください。

〔例3〕スピーカの接続例



② ハイインピーダンススピーカの接続

ハイインピーダンスのスピーカを1系統で放送する場合または系統別に放送する場合は出力端子②に接続してください。

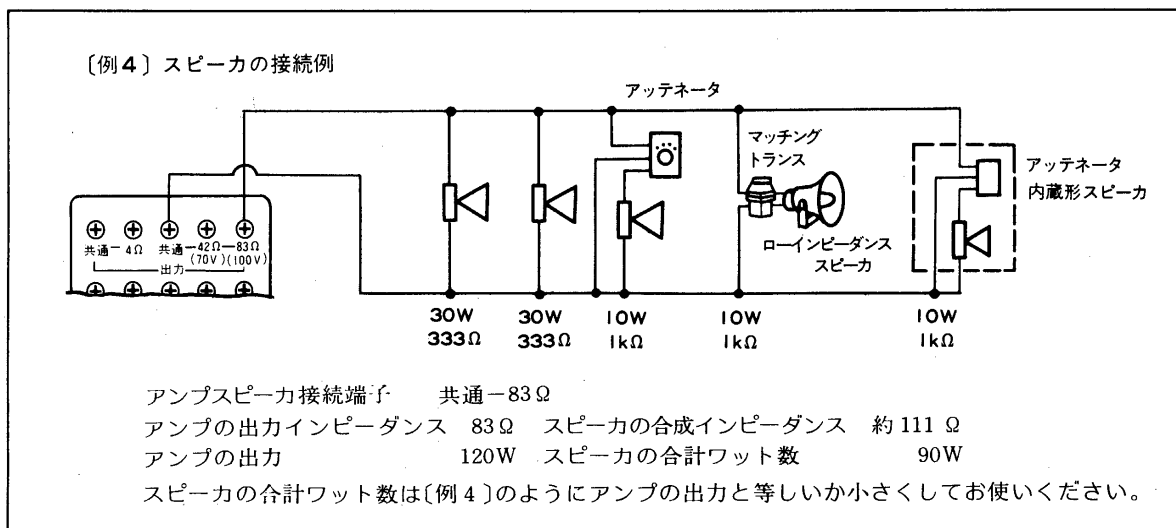
通常は100Vライン(83Ω端子)に接続しスピーカの合計ワット数が定格出力に等しいかそれ以下であれば問題はありません。

(東芝のマッチングトランス付スピーカは100Vラインです。)

TOSHIBA

■ 1 系統で放送する場合

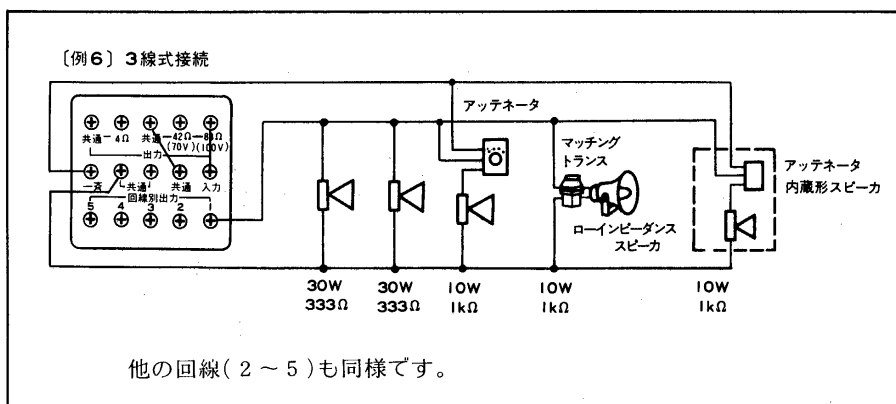
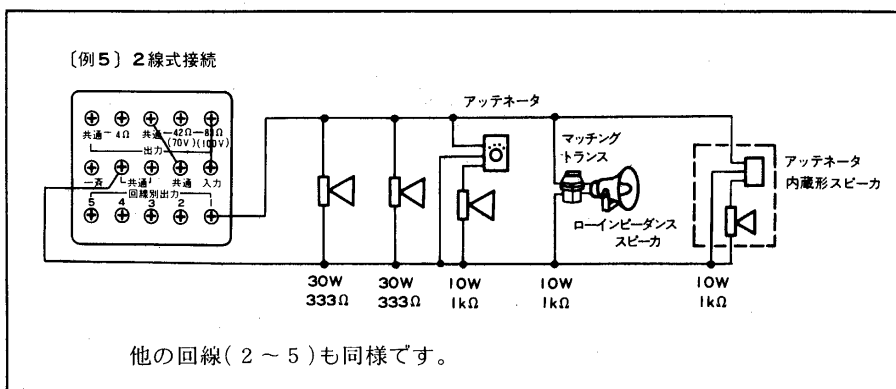
出力端子⑤の共通-83Ω端子間にスピーカを接続してください。



■ 系統別に放送する場合

系統別に放送する場合は【例5】【例6】のように出力端子⑤を接続してください。

(出荷時には出力端子⑤は接続してありません)



アンプとスピーカ間の 延長可能距離

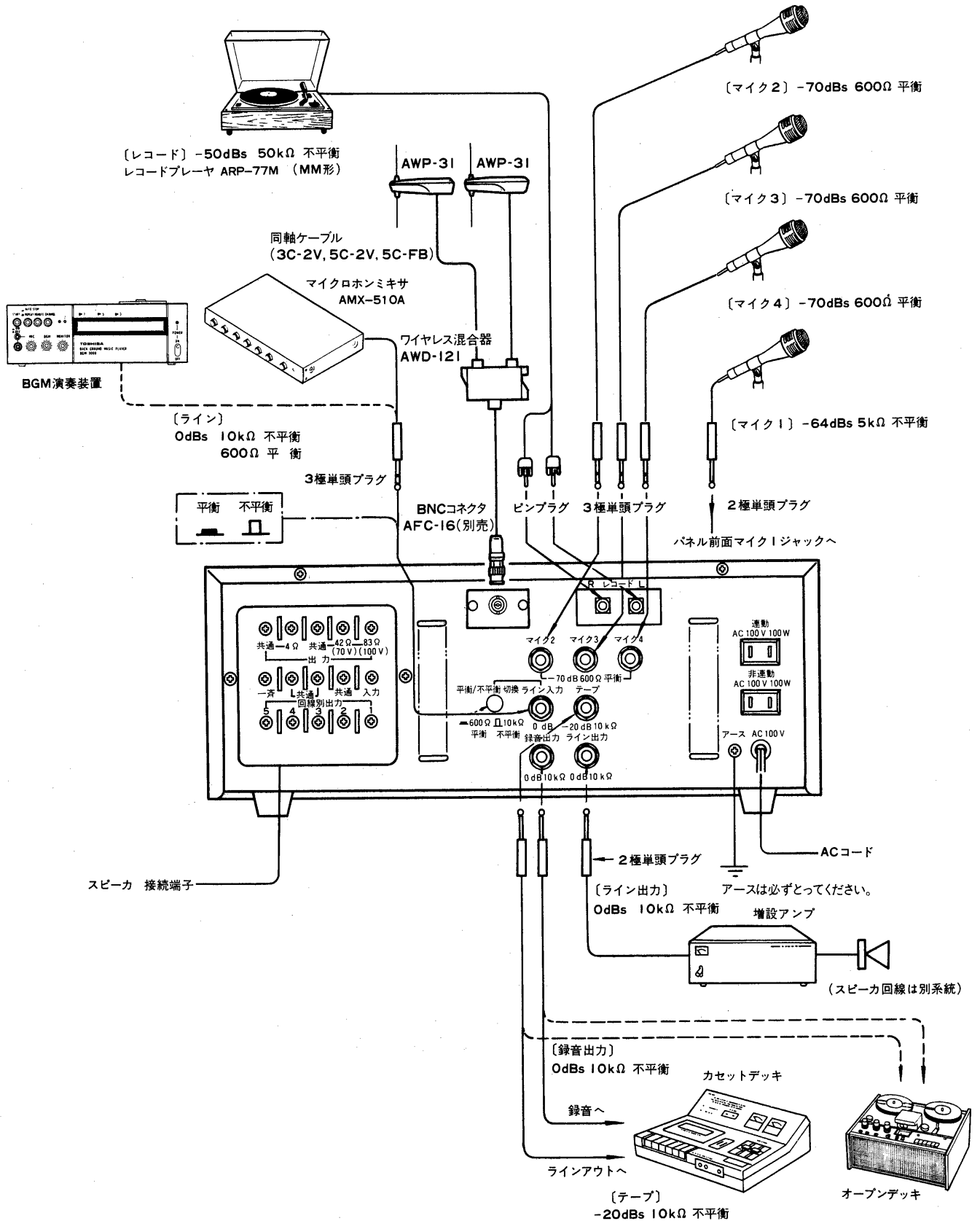
インピーダンス 線径	ローインピーダンス (4Ω)	ハイインピーダンス	
		42Ω	83Ω
φ1.0 mm	10m	90 m	180 m
φ1.2 mm	13m	140 m	280 m
φ1.6 mm	23m	250 m	500 m
φ2.0 mm	40m	380 m	770 m
φ2.6 mm	60m	650 m	1300 m

線路抵抗がアンプの負荷インピーダンスの10%になる距離のめやす。
 この距離以下であれば問題ありません。

ローインピーダンススピーカとハイインピーダンススピーカの同時使用は避けてください。

TOSHIBA

機器相互間の接続



使いかた

■準備

- 接続が終わりましたら、すべてのスイッチが「切」の位置になっていることを確かめ、また各音量ツマミも「左いっぱいに絞った」位置（丸ツマミの場合）、あるいは「いちばん下にスライドした」位置（スライドツマミの場合）にあることを確かめてください。
- 電源コード⑳を電源コンセントへ差し込んでください。
- 電源スイッチ㉑を「入」(—)にしてください。

■操作のしかた

- 主音量調節ツマミ⑩をほぼ7～8目盛に合わせてください。
- 次に入力端子に接続してある機器に対応する音量調節ツマミをスライドして調節してください。
- 有線マイクロホンを使用するとき
 - マイク入力ジャック㉒⑳㉓㉔にマイクロホンをつなぎます。この時使用するマイクロホンはインピーダンス200 Ω ～50k Ω のものをお使いください。
 - マイク音量調節ツマミ⑮～⑰をゆっくり上にスライドし、お好みの音量に調節してください。
- ワイヤレスマイクロホンを使用するとき
 - ワイヤレスマイクは本機のチャンネル表示色と同じ色（同じ周波数）のものを選んでください。
 - 使用するチャンネルの電源スイッチ③⑤を「入」(—)にしてください。受信表示灯②④が「赤色」に点灯して受信可能状態になります。
 - ワイヤレスマイクロホンのスイッチを入れて本機のアンテナに近づけ受信表示灯が「緑色」に点灯すれば使用可能です。
(もし送、受信周波数帯がずれていれば受信表示灯は赤色に点灯したままです。)
 - ワイヤレス音量調節ツマミ⑭⑯をゆっくり上にスライドし、お好みの音量に調節してください。
 - ご使用にならないチャンネルの電源スイッチは「切」にしておいてください。
 - その他のワイヤレスマイク、アンテナの取扱説明書をあわせてご覧ください。

●レコードプレーヤを使用するとき

- レコード入力ジャック⑪にピンプラグで接続してください。
レコードプレーヤのカートリッジには主としてMM形とクリスタル形（またはセラミック形）の2種があります。このアンプのレコード入力はMM形に特性が合わせてあります。クリスタル形を使用するときはテープ入力に接続してください。
- レコード音量調節ツマミ⑩をゆっくり上にスライドし、お好みの音量に調節してください。
- テープデッキ（カセットテープデッキ、オープンデッキ）を使用するとき
 - テープ入力ジャック⑫とテープデッキの「ライン出力（LINE OUT）」端子とを接続してください。
テープ音量調節ツマミ⑬で音量を調節してください。

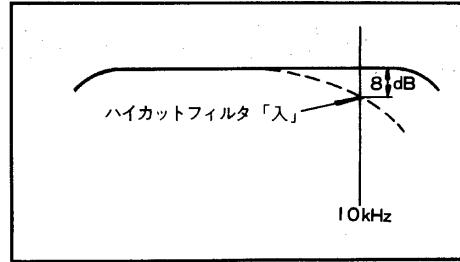
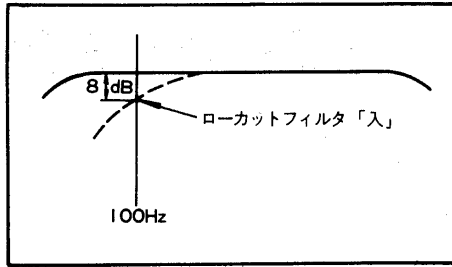
●ライン入力ジャックを使用するとき（外部機器のレベルが0dB程度のとき）

- ライン入力ジャック⑬と外部機器の「ライン出力（LINE OUT）」端子を接続してください。
このとき接続する外部機器の「ライン出力（LINE OUT）」が平衡出力の場合は本機の平衡、不平衡切りかえスイッチ⑭を平衡に(—)、不平衡の場合は不平衡に(⏏)切りかえてください。
- 音量は外部機器の音量調節器で調節してください。

●フィルターの使いかた

- ローカットフィルタースイッチ⑦を「入」(—)にすると低音（100Hz以下）が減衰し、ハイカットフィルタースイッチ⑧を「入」(—)にすると高音（10kHz以上）が減衰します。
- キーンというハウリングをおこした場合はハイカットフィルタースイッチを「入」(—)に、また講演等で低音が響きすぎる場合はローカットフィルタースイッチを「入」(—)にするなど用途に応じ使いわけてください。

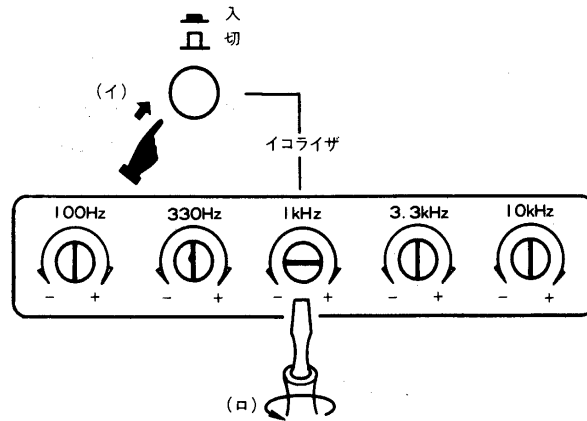
TOSHIBA



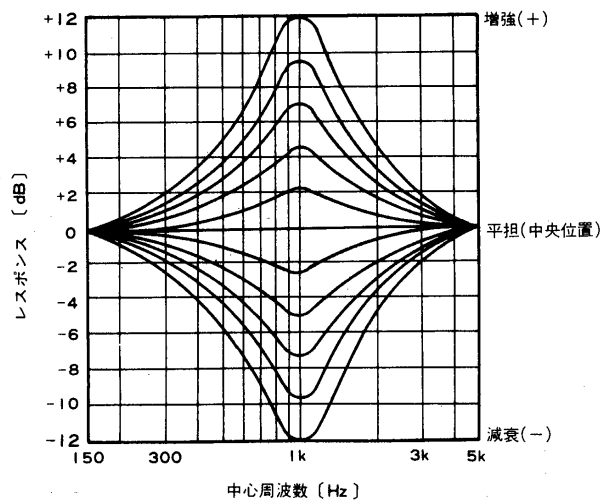
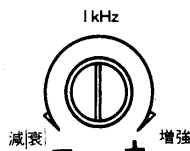
●イコライザの使いかた

- これは音場に合わせて周波数特性を補正し明りょう度をあげたり音響効果をあげたりするためのものです。
- 周波数特性は5点のイコライザ調節器②で100Hz、330Hz、1kHz、3.3kHz、10kHzの周波数特性を調節できます。
- 音場補正の必要なときは(イ)イコライザスイッチ⑥を「入」(■)にし(□)各周波数特性を調節してください。

(調節後はイコライザスイッチ⑥を入、切することにより、イコライザのききぐあいを確認できます)



- 調節器が中央位置でフラットな周波数特性となります。
- 調節器を「+」方向にまわすと周波数特性は+12dBまで増強します。
- 調節器を「-」方向にまわすと周波数特性は-12dBまで減衰します。



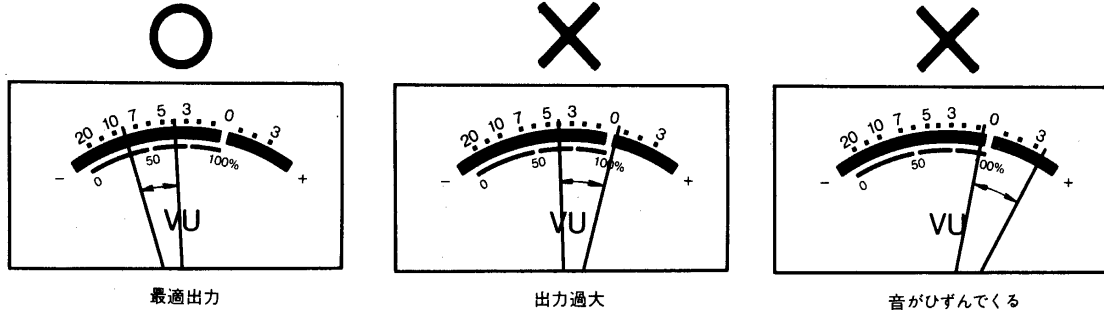
- レベルの調節はその設置条件(設置場所の残響、放送内容、使用スピーカなど)により異なりますのでその設置場所および目的に適合した周波数特性になるように調節してください。
- 音場補正の必要なとき以外はイコライザ調節つまみを中央位置に、イコライザスイッチ⑥を「切」(□)にしてください。

TOSHIBA

●主音量ツマミの使いかた

主音量ツマミ⑩は全体の音量を調節できます。

実際の放送にあたって、レベルメータの指針の振れの最大が「最適出力」となるように音量ツマミ⑩で調節してください。



●アンプを増設したいとき

- アンプを増設したいときは本機のライン出力ジャック⑭を増設用アンプのライン入力端子(0 dBs、10k Ω 以上)に接続してください。
- ただしこの場合アンプの出力側とおしを並列に接続することはできませんのでご注意ください。

●録音するとき

- 録音出力ジャック⑮をテープレコーダの録音端子に接続してください。

●スイッチボードによる回線別放送と一齐放送

- スピーカーは5回線に分けられます。必要回線のスイッチを「入」にしてください。スイッチを「入」にした回線のみ放送できます。
- 全回線を一齐に放送するときは一齐スイッチを「入」にすると全回線一齐に放送できます。

※指名状片の記入について

- スピーカー回線別に放送個所を記入しておく、放送、サービスに便利です。
- 指名状片は2枚付属しています。放送個所1～5を記入して貼付してください。

●モニタについて

- 本機はモニタスピーカを内蔵しています。
- モニタ音量調節ツマミ⑨を右にまわし好みの音量になるように調節してください。

取扱上のご注意とお願い

- サービスコンセントに接続する機器は、それぞれ電力容量の合計がAC100V 1 A 以下になるようにしてください。
- スピーカは伝送電圧の同じスピーカをご使用ください。
- スピーカ出力を短絡(ショート)したまま動作させないでください。スピーカ回路の短絡や過負荷に対する保護装置が入っておりますが、もし出力が出なくなったときはヒューズが切れたためですからすぐに電源スイッチを切り、その原因を取り除いてから規定の管ヒューズと交換してください。(管ヒューズは本体底ぶた前面側のカバーをとりはずすと電源スイッチ近傍に取りつけられています)

修理サービス

ご使用中に異常が生じたときは、電源を切ってお買いあげの販売店またはお近くの東芝お客様ご相談センターにご相談ください。なお、ご相談されるときは機器の形名(AVA-1203B)およびお買いあげ時期をお忘れなくお知らせください。

TOSHIBA

仕様・定格

形名	AVA-1203B		
電源	AC100V 50/60Hz		
消費電力	Ⓢ120W (定格出力時310VA)		
定格出力	120W		
負荷インピーダンス	4Ω、83Ω(100V)、42Ω(70.7V)		
スイッチ	5局+-斉		
ひずみ率	ライン入力1kHzにて定格出力時0.5%以下		
周波数特性	83Ω出力：50~15000Hz ±3dB (ライン入力にて)		
信号対雑音比	マイク：55dB以上 レコード：50dB以上 その他：60dB以上		
フィルター	ロー：100Hz -8dB以上 ハイ：10kHz -8dB以上		
イコライザ	周波数：100Hz、330Hz、1kHz、3.3kHz、10kHz 可変範囲：±12dB		
入力回路	マイク1	-64dBs 5kΩ	不平衡
	マイク2	-70dBs 600Ω	平衡
	マイク3	-70dBs 600Ω	平衡
	マイク4	-70dBs 600Ω	平衡
	レコード(RIAA)	-50dBs 50kΩ	不平衡
	テープ	-20dBs 10kΩ	不平衡
	ライン	0dBs 10kΩ	不平衡
		600Ω	平衡
			} スイッチ切換
	ワイヤレスチューナ1	受信周波数 322.050MHz	C11
	ワイヤレスチューナ2	受信周波数 322.250MHz	C13
出力回路	ライン出力	0dBs 10kΩ	不平衡
	録音出力	0dBs 10kΩ	不平衡
外形寸法	400(幅)×145(高)×360(奥行) (ゴム足、コード等の突起物除く) 単位：mm		
塗装色	パネル：オフブラックメタリック塗装、ケース：ダークグレー		
使用周囲温度	0℃~+40℃		
重量	18.5kg		
付属品	取扱説明書 1 東芝お客様ご相談センター一覧表 1 2極大形単頭プラグ(6.3φ) 2 3極大形単頭プラグ(6.3φ) 2 ヒューズ(15A) 1 ヒューズ(5A) 1 指名カード 2		